

沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発

(予算区分 受託 研究期間 平成23～25年度)

担当：水産技術研究所 資源海洋科 長谷川 雅俊

普及総括班 鈴木 朋和

【研究の背景とねらい】

- シラスは重要な沿岸漁業対象種で、毎年40～50億円の漁業生産額を挙げています。シラス漁業は、漁場探索に多大な燃油を使用するため、燃油の高騰により漁業経営が圧迫されています。
- そこで、漁業経営の効率化をめざし、情報提供による操業支援に取り組みました。海域、季節の特性にあったシラス漁場形成メカニズムを明らかにし、黒潮の変動予測、沿岸の海洋情報、シラスの水揚げ・漁場情報、過去の漁獲データなどを盛り込んだ漁場探索指針を開発しました。

【研究成果】

- シラス漁況の短期変動要因として黒潮系暖水波及と台風の大量降雨が見出されました。
- 暖水波及による漁況好転、黒潮離岸による漁況低下、台風による大量降雨後の漁況好転、長期予測などを内容とする探索指針を開発しました。
- 春期の黒潮系暖水波及によるシラス漁況変化の予測情報提供手順を図1に示しました。一連の情報発信を行うことで、シラス漁場形成の予測ができ、漁業者やシラス加工業者への情報提供が可能となりました。
- 漁場探索指針の活用事例として、好漁時にプール制を実施した場合、1日当り燃油使用量が33%減少し、燃油当りの漁獲量が1.26倍になること、好漁時において単価の下落を抑え一定の水準を維持できることが明らかになりました。

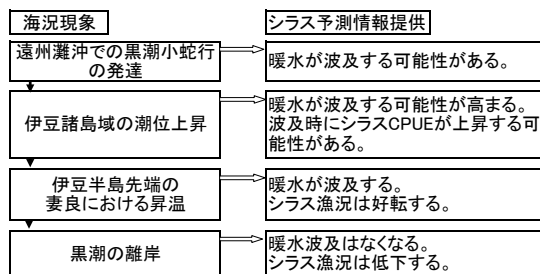


図1 春季の暖水波及による漁場形成に対する情報提供
左側の海況現象が把握されたときは、右側のシラス予測情報を発行する。

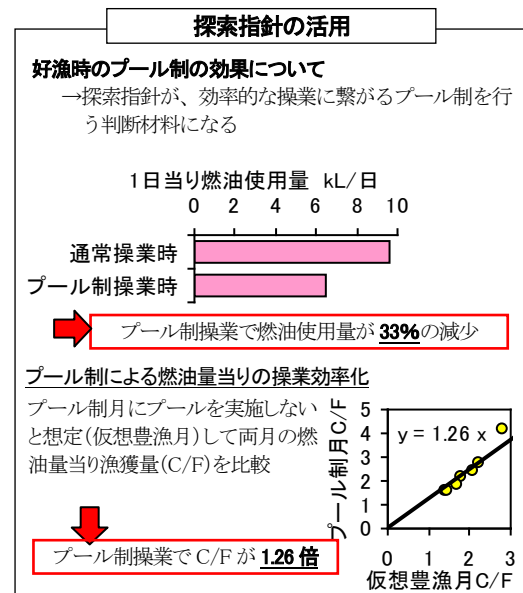


図2 探索指針の活用による燃油削減効果の試算

【研究成果の普及方法】

- 探索指針に基づき随時シラス情報を発行します。情報はFAXで漁協に通知するとともに、水産技術研究所HP (<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/05wait/5-5-12.html>)に掲載します。
- 漁業経営の安定につながるように、ウェブや研修会等を通じて研究成果を普及します。

(作成 平成26年3月)